

第3回つながりキャンプ 3日目 (3月9日)

◆ 3日目 (3月9日)

・ チェックアウト (貸切バス内)

3日目、最終日バスに乗り大川小学校に向かう中、チェックアウトを行いました。1人4分程度で「これから支部や地元に帰って何をしたいか・できるか」というテーマで話してもらいました。バスの席順で前からマイクを回していき、一人ずつ話した。話しているときは、話している人を受け入れる優しく温かい雰囲気にはバスの中は包まれていました。



思ったこと、感じたことをまとめられず、言葉を出てくるままに話したり、話しているうちに感極まって泣いてしまったりした参加者もありました。この経験を通して、これからの活動に熱が入るのではないかと思います。

(山梨支部リーダー 阿部桃子)

・ 石巻市立大川小学校旧校舎 (宮城県石巻市釜谷山根1)

石巻市釜谷地区の北上川河口から約4kmの川沿いに位置する大川小学校は、3月11日の東日本大震災で全校児童108人の7割に当たる74人が死亡、行方不明となりました。学校教育現場における防災訓練等防災教育等の重要性が再確認される教訓として、語り継がれることとなりました。津波により多くの命が失われることとなった東日本大震災ですが、特に若い命が失われたということで、ショックを受けた人も多いと思います。一人ずつ慰霊碑に祈りを捧げ、旧校舎の周りを見学しましたが、かつて使われていたであろう教室や掲示板などが、かろうじて残されていて、そこで過ごしていた子どもたちのことを思うと、なおいつそういたたまれない気持ちになりました。その子たちが生きていれば、今は中学生か高校生です。残された人たちのことを思えば、なお言葉になりません。事実、震災から6年経っても学校と遺族との間で裁判が続いています。ただ、どれだけ時間が経っても、人の命は取り返すことが出来ないのです。(本部広報 大久保航平)



・ 道の駅 上品の郷

南三陸のさんさん商店街や気仙沼の復興屋台村のように、ここでも当地の美味しいものが味わえました。お土産もたくさんありました。このあたりでは、ワカメやサバなどの魚介類が特に知られています。金華サバの缶詰を物産販売会で取り扱っている支部もあり、メンバーにとってはおなじみだと思います。三陸といえば、秋にはサンマもたくさん獲れます。魚介類が好きな方は、東北が大好きになったのではないのでしょうか。それでいいと思います。被災地となる以前の魅力を知って、それに惚れ込んだら、そうやってまた訪れたいくなるでしょう。観光客として、当たり前のように旅行先の選択肢となってこそ、訪れる立場の人も、出迎える立場の人も、これが「日常」なのだ、と感じるはずです。この3月を過ぎても、そういった意味で東北を「忘れない」ことが、わたしたちの活動にとって心の支えとなると思います。団体として「復興」の実現を応援しつつ、個人的にも東北への思いを深めてくれれば嬉しいと思っています。（大久保）



【アクセス・連絡先等】

〒986-0132 宮城県石巻市小船越二子北下 1-1

TEL : 0225-62-3670

HP : <http://www.joubon.com/home/>